

浅草の風(1)

(M17) 横山武男 居酒屋の数々

青年時代の酒は、致醉飲料だといわれているが、親に似て量が少ない。なお、顔がすぐ赤くなるのは似ていない。これはいまもって変わらない。

この時代を振り返ると、日本酒ではなく瓶ビールが主であつたようである。生ビールはあまり好かない。

三十代からはウイスキーのスローン、ジンマイズが多くなった。ビールは腹が張り、料理も余り入らないからである。

四十年後半から、仕事で先輩と全国の旅館に宿泊するようになってから先輩にならって地酒に転向した。

定年後五年間の職場は御徒町にあったが、地元の酒は少ななく、東京駅地下街や有楽町に途中下車して、軽く飲んだ。

六十才になってから、一日おきに外出し、出先で夕酒を楽しんだ。帰宅してからは飲まない。酒に強くならないからで、在宅日の晩酌は銚子一本で満足する。山陰旅行で求めた秋焼きの銚子は一合たっぷりで店の二本にちかい。馬上盃も秋焼酒を毎日楽しんでいる。

酒との付き合っている歴史である。酒と付き合ってきた店は、二十六五才から、歩くこと、夕酒を毎日楽しんでいた。十代から年とともに変わってくるが、振り返ると、一時、どうもいた店もまた行って見ることもある。

小学生の頃、父が晩酌をしているとき、時々酒を盃に少し貰つた記憶がある。そのときはほど

んな酒を飲んでいたかは、知るよしもなかつたが、大きくなつて銘柄はへ白鶴▽と分かつた。自分で晚酌するようになつたときはへ白鶴▽を飲んでいたが、いつのまにかへ白鶴▽が家庭の酒となつた。

居酒屋で飲む酒がへ白鶴▽のときは、遠い昔になったが父のことを偲ぶことがある。浅草飲み歩きでは少し書いた「夕酒のたのしみ」の居酒屋もとりあげた。

(1) 神谷バー(日本酒は富貴)とデンキプラン
浅草一丁目一番一号に神谷ビルがある。當団地下鉄浅草駅でおりて観音通りへの階段を雷門通りにて、隅田川に懸かる吾妻橋に向かって三軒目、馬通通りの角にある。神谷ビルの一階が神谷バーである。

明治十三年、初代神谷伝兵衛が『みかはや銘酒店』として洋酒の一杯売りをはじめ、明治十五年に電気プランナーが誕生し、時代の変遷とともに電気プランとなり、今ではデンキプランと呼ぶ。現代は四代目が引き継いでいるそうだ。

最近、品川在住の方から話しかけられた。四十代後半の筋肉質体格の人で、「一こここの社長の住居の近くにわたしは住んでいます。学校の先輩です。」「専務は後輩になります。」

「みかはや銘酒店」の名前が、とにかく軒の字で、洋酒の一杯売りをはじめ、明治十五年に電気プランナーが誕生し、時代の変遷とともに電気プランとなり、今ではデンキプランと呼ぶ。現代は四代目が引き継いでいるそうだ。

明治十三年、初代神谷伝兵衛が『みかはや銘酒店』として洋酒の一杯売りをはじめ、明治十五年に電気プランナーが誕生し、時代の変遷とともに電気プランとなり、今ではデンキプランと呼ぶ。現代は四代目が引

き継いでいるそうだ。

この店は入り口の傍のレジでチケットを買ってから席につくというやり方で、浅草の縁日で混雑するときも客の整理もよくでき、また従業員は自分の名

前の入ったカードとチケットの半券を置く。初めての客も安心して注文品のくるのを待つてくれる。平常の客数の時間帯では、追加のときはその席で、できるサービスが客の気分をよくしている。

ここに来る客は、デンキプランが目当てである。デンキプランの由来と成分による、電気プラン誕生のときは文明開化の影響で、西洋の洒落たものには「電気○○」と名をつけたとある。デンキプランはアルコール30度。プランナーをベースにワイン、ジン、キュラソーなどがカクテルされている。デンキプラングラス一杯は、 $70mL (70 + 30 = 2.3 \text{オンス})$ である。

アルコール分を計算すると、 $(70mL \times 30/100 = 21mL)$ $0.75 \text{本} \quad 0.77 \text{合}$
 $(70mL \times 40/100 = 28mL)$ $0.86 \text{本} \quad 0.89 \text{合}$
 $(60mL \times 40/100 = 24mL)$ $0.86 \text{本} \quad 0.89 \text{合}$

度 $70mL (70 + 30 = 2.3 \text{オンス})$ である。神谷バーを紹介した本(昭和十六年発行)によると、四代目神谷信弥社長(当時四十八歳)は、慶応出身でワープロを使いメニューづくりから、社員の月給計算までこなしとある。「煮込みは人気商品ですが、わたしはうけつけません。電気プランもいけません。甘い酒を飲みながらおかつ、ものを食う心理がわからない。ウイスキーを二百ミリリットルほど、ロックで三杯分、が私の流儀で」「タマに飲む」電気プランは、よく冷やして甘さをおさえ、塩気のある、例えば、スマートサーモンをツマにして、やつと口に入る。』と社長の言葉をのせていく。

普通の人は、三杯デンキプランに二杯の水(水の二個)、

懇親会・一泊旅行記(E13) 笹本克巳

毎年の恒例行事となっている新旧当番料の幹事と有志会員で行っている一泊懇親会を今年も鬼怒川温泉で催しました。

三月三日、参加十八名、東武

二杯の場合に一杯の水がく

飲み方は概ね水の中にデンキプランを入れて薄めたもので飲むように少しずつ飲む。

デンキプランは常温なので冷やせば甘さを少し押さえられるからであるように思う。甘さは女性向きである。

私は日本酒を飲む。たまに、高齢者から「デンキプランを飲まないですか」と話しかかれれる。

ここでは、黒ビール、日本酒のみの者は非常に少ないのです。神谷バーを紹介した本(昭和六十三年発行)によると、四代目神谷信弥社長(当時四十八歳)は、慶應出身でワープロを使いメニューづくりから、

ここには唯の遊園地ではなく世界の有名建築物を正確に25分1度の縮尺で作られて居り、それぞの建造物の内外には身長7cmの小さな人間や動物が計14万人も配置され極めてリアルであります。

翌日は近くの東武ワールドス

クエアを見学しました。

ここは唯の遊園地ではなく世界の有名建築物を正確に25分1度の縮尺で作られて居り、それぞの建造物の内外には身長7cmの小さな人間や動物が計14万人も配置され極めてリアルであります。

この一泊懇親会は毎年春、参

加者全員費用自己負担でやりますので、各科幹事に連絡して詳しく述べる紙面があります。せんがご家族づれで、最も非一度は行ってみる価値のある傑作だと思いました。当日は凄く寒くなりります。

この一泊懇親会は毎年春、参

加者全員費用自己負担でやりますので、各科幹事に連絡して詳しく述べる紙面があります。せんがご家族づれで、最も非一度は行ってみる価値のある傑作だと思いました。当日は凄く寒くなりります。

※CI商品企画、パッケージ、ディスプレイ、サイネ等のデザイン●TEL 03-3403-2613 FAX 3405-0178

(株)オーディ 代表取締役社長 岡田宏三(A28)

懇親会・一泊旅行記

(E13) 笹本克巳

毎年の恒例行事となっている新旧当番料の幹事と有志会員で行っている一泊懇親会を今年も鬼怒川温泉で催しました。

三月三日、参加十八名、東武

二杯の場合に一杯の水がく

飲み方は概ね水の中にデンキプランを入れて薄めたもので飲むように少しずつ飲む。

デンキプランは常温なので冷

やせば甘さを少し押さえられるからであるように思う。甘さは女性向きである。

私は日本酒を飲む。たまに、高齢者から「デンキプランを飲まないですか」と話しかかれれる。

ここでは、黒ビール、日本酒のみの者は非常に少ないのです。神谷バーを紹介した本(昭和六十三年発行)によると、四代目神谷信弥社長(当時四十八歳)は、慶應出身でワープロを使いメニューづくりから、

ここは唯の遊園地ではなく世界の有名建築物を正確に25分1度の縮尺で作られて居り、それぞの建造物の内外には身長7cmの小さな人間や動物が計14万人も配置され極めてリアルであります。

翌日は近くの東武ワールドス

クエアを見学しました。

ここは唯の遊園地ではなく世界の有名建築物を正確に25分1度の縮尺で作られて居り、それぞの建造物の内外には身長7cmの小さな人間や動物が計14万人も配置され極めてリアルであります。

この一泊懇親会は毎年春、参

加者全員費用自己負担でやりますので、各科幹事に連絡して詳しく述べる紙面があります。せんがご家族づれで、最も非一度は行ってみる価値のある傑作だと思いました。当日は凄く寒くなりります。

この一泊懇親会は毎年春、参

加者全員費用自己負担でやりますので、各科幹事に連絡して詳しく述べる紙面があります。せんがご家族づれで、最も非一度は行ってみる価値のある傑作だと思いました。当日は凄く寒くなりります。

※CI商品企画、パッケージ、ディスプレイ、サイネ等のデザイン●TEL 03-3403-2613 FAX 3405-0178

(株)オーディ 代表取締役社長 岡田宏三(A28)

花の精

(M18) 小川玉泉

この店は入り口の傍のレジでチケットを買ってから席につくというやり方で、浅草の縁日で混雑するときも客の整理もよくでき、また従業員は自分の名

前に入ったカードとチケットの半券を置く。初めての客も安心して注文品のくるのを待つておられる。平常の客数の時間帯では、追加のときはその席で、できるサービスが客の気分をよくしている。

ここに来る客は、デンキプランが目当てである。デンキプランの由来と成分による、電気プラン誕生のときは文明開化の影響で、西洋の洒落たものには「電気○○」と名をつけたとある。神谷バーはアルコール30度。プランナーをベースにワイン、ジン、キュラソーなどがカクテルされている。デンキプラングラス一杯は、 $70mL (70 + 30 = 2.3 \text{オンス})$ である。

アルコール分を計算すると、

$(70mL \times 30/100 = 21mL)$ $0.75 \text{本} \quad 0.77 \text{合}$
 $(70mL \times 40/100 = 28mL)$ $0.86 \text{本} \quad 0.89 \text{合}$
 $(60mL \times 40/100 = 24mL)$ $0.86 \text{本} \quad 0.89 \text{合}$

度 $70mL (70 + 30 = 2.3 \text{オンス})$ である。

神谷バーを紹介した本(昭和

六十三年発行)によると、

六十三年発行)によると、